

ごあいさつ



日本WHO協会 理事
関西グローバルヘルス(KGH)の集い 運営委員代表
大阪大学大学院医学系研究科 特任講師(常勤)

小笠原 理恵

関西グローバルヘルス (KGH) の集いは2019年1月に始まりました。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響を受けて、現在はオンラインセミナーが主な活動になっていますが、もともとは10~30人規模で開催していた対面型の勉強会でした。

その根っこは、大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学講座国際協力学の中村安秀ゼミで不定期に開催していた自主勉強会にあります (現在、グローバル人間学講座はグローバル共生学講座に変わっています)。当時の国際協力学講座はインドネシア、ラオス、モンゴルなどからの留学生が三分の一を占めており、正規のゼミの中ではプレゼンテーションも質疑応答も英語で行うのがルールでした。限られた時間の中、英語でディスカッションを行うことは、たいへん貴重な訓練の機会であった反面、表面的な質疑応答に終わってしまうなど消化不良に陥ることもしばしばでした。そのモヤモヤを解消すべく、有志によって始まったのが日本語勉強会でした (「日本語」を勉強する会ではありません。あしからず)。修士・博士論文の完成を最終目標に、自由闊達に、それこそ知らない人が見たら失礼千万と思うのではないかというくらい率直に、お互いの意見をぶつけ合える場を持ち、それぞれの専門性を高め合うことが目的でした。

それからおよそ5年後の2018年12月、すでに大阪大学を退官され当協会の理事長に就任していた中村安秀先生の呼びかけに応じて、KGHの集いの立ち上げメンバー約10名が協会事務局に集いました。グローバルヘルスに関する諸テーマを取り上げ、立場や職業、年齢などを越えて自由闊達にディスカッションし、お互いを切磋琢磨しあえるような場を日本WHO協会提供したいという思いを共有し、行動に移すことが決まりました。その後の打ち上げの席で会の名称を決めたのですが、一人一人が割りばしの空袋の裏に良いと思う名称を書き、その場の多数決によって、現在の「関西グローバルヘルスの集い (略称: KGHの集い)」という名称が出来上がりました。

そしてあっという間に立ち上げから4年が経ちました。初期メンバーとして運営に携わっていた仲間の中には、医学生から医師になっていた人たちや新たに社会人になっていった人たちなど、それぞれの道に向かって歩き始めた人たちがいます。その一方で、新メンバーが随時加わってくれています。運営スタッフは皆有志によるボランティアです。きつい縛りはありません。やれる時にやれる事を、責任を持ってやる。それだけです。グローバルヘルスに関心のある皆さん、私たちと一緒に活動してみませんか？

2022年10月